

服薬ケア研究会は、会員の会費と、勉強会の参加費のみで運営されている非営利団体です。

「頭の中を POS に」特別編

皆さん、服薬指導に自信はありますか？

このワークは、薬剤師の患者対応を数段レベルアップさせる、大変ためになる演習です。ワークでは、模擬患者を一人おき、模擬症例を元にして、患者役とやり取りしながら服薬指導を組み立てていきます。薬学的な注意点からコミュニケーション技術まで、すべてを学べる薬剤師としての実力を総合的に高める演習です。何度も参加すると、疾患別の服薬指導の要点も身に付きます。誰もが一度は参加して欲しいワークです。皆様のご参加をお待ちしております。

>>>> 服薬ケア研究会 第53回例会開催要項 <<<<

(日本薬剤師会研修センター認定研修 3単位)

- * 日時:平成26年6月22日(日) 10:00~16:00
- * 場所:鹿児島市勤労者交流センター(よかセンター)
(〒890-0053 鹿児島市中央町10番地 tel:099-285-0003)

* 内容:「頭の中を POS に」ワーク特別編 (症例#21)

模擬症例を用いて患者役の方と実際に応対をしながら「どのように応対するのがよいのか」を学んでいくワークです。実際には3~5分程度で終わってしまう患者さんとのやりとりを3時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら組み立てていきます。

* タイムスケジュール(予定) ※ワーク途中昼休みを挟みます

- 10:00~11:00 講義「服薬指導の組み立て方」
- 11:00~16:00 全体ワーク「頭の中を POS に」演習

- * 講師:服薬ケア研究会会頭 岡村 祐聡先生
- * 参加費:一般 会員 4,000円 非会員 6,000円
- * 参加人数:ワーク席 10名 オブザーバー席 40名 先着順(入金をもって正式に受付とします)

ワーク席参加者は応対する薬剤師役となり、最適なケアを組み立てる思考訓練が出来ます。オブザーバー席はワークの様子を見学する形になります。

お問合せは返信先を明記の上 FAX にて 03-6368-6058 まで。
参加申し込みは下記の必要事項を記入の上、服薬ケア研究会 Fax:03-6368-6058 まで送信下さい。
又、メールでのお申し込みは fukuyakucare-jimukyoku@yahoo.co.jp まで、下記事項を記入してお送りください。
折り返し入金方法や会場へのアクセスをご案内しますので、返信先(Fax またはメールアドレス)を必ずお書き下さい。

FAX 送信先 : 03-6368-6058

.....<6/22 第53回例会に参加します>.....

○氏名: ふりがな _____ ○メールアドレス: _____

○住所:(自宅・勤務先)〒 _____

○電話:(自宅・勤務先) _____ ○FAX:(自宅・勤務先) _____

○勤務先 _____ ○職種 _____ ○服薬ケア研究会会員?:はい(会員番号: _____) いいえ

○参加希望席: ワーク席・オブザーバー席 (○が無い場合はこちらで指定させていただきます)

○同時入会を希望しますか? はい・いいえ



隣接するキャンセ駐車場がご利用になれます。(有料)できるだけ公共交通機関をご利用ください。

頭の中を POS に！（特別編）とはどんなワーク？

すべての薬剤師に必ず学んでいただきたい 大変学習効果の高い演習です！

このワークは、岡村先生のご著書「薬局薬剤師の患者対応」(p78～83)、「患者対応技術の実践法」(p32)などに紹介されているもので、薬剤師の実力をつけるための総合演習として最適なワークです。このワークに20回から30回参加すれば、薬剤師として

一流の思考力と患者対応力を身に付けることができます。現在現役で活躍するすべての薬剤師の方にご参加いただきたい演習であると考えています。用いる症例は毎回新たに作っておりますので、同じものは一つもありません。何度参加されても勉強になります。何度でもご参加いただきたいと思います。

このワークでは、模擬症例を用いて患者役の方と実際に対応をしながら、「どのように患者対応を組み立てていくのか」を学びます。実際には3～5分程度で終わってしまう患者さんとのやり取りを、3時間以上かけてじっくりとディスカッションしながら、組み立てていくのです。特にこの「特別編」では、岡村先生が直接チューターを務めてくださいますので、「服薬ケアステップ」(患者対応を効果的に進めていくための方法論)を、まさに実践しながら学ぶことができます。

このとき、ワーク席の参加者は対応する薬剤師役となり、患者対応を行います。また、ワーク席の参加者は、指導を組み立てる議論に参加していただきますので、チューターより発言を求められます。したがって、自分自身で実際に症例に取り組み、思考訓練を行いたい場合には、ワーク席をご希望下さい。

オブザーバー席の参加者は、基本的にはワーク席の参加者がケアを組み立てていく様子を周りで見学する形になります。チューターから指名され、発言を求められることはありません。講師が適宜必要な解説をはさんでいきますので、目の前のやり取りを聞きながら、落ち着いて「どのように考えれば良いのか」を学ぶことができます。そのため、「指される」緊張はなく、しっかりと考え方を学ぶことができます。しかし、チューターより指されることはありませんが、自分で意見を述べたいときには挙手して意見を述べることができますので、ワークの流れに自分の意志で参加することは可能です。ですから、ただ単に「見ているだけ」ではありません。そういう意味で、緊張しやすい人やじっくりと考え方を学びたい場合は、ワーク席での参加よりも、オブザーバー席の方が勉強になるという方もいるでしょう。

ワーク席の参加者は、患者対応の組み立てだけでなく、コミュニケーション技法を用いて、患者さんとのやり取りをその場で行いますので、「服薬ケアステップ」の考え方を学ぶだけでなく、「服薬ケアコミュニケーション」の実践練習を同時に行うことができます。

このように、ワーク席、オブザーバー席、どちらの参加でも、とても勉強になります。

なお、参加される方は、必ず自分が使い慣れた薬や病気に関する参考書などを持参してください。このワークは考え方を学ぶワークですので、知識があやふやでは思考を組み立てることができません。(主催者側では特に添付文書などは用意しませんので、必ずご自身でご持参下さい。)

